（別紙4）　　平成　25　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2170102376		
法人名	社会福祉法人　千代田会		
事業所名	ウェルビュー明郷		
所在地	岐阜県岐阜市真砂町１丁目２０番地の２		
自己評価作成日	平成２５年５月３０日	評価結果市町村受理日	平成25年8月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2170102376-00&PrefCd=21&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成25年7月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・決められた行事だけでなく、外気浴やドライブ、外食、外注、喫茶店へ行くなどの機会を取り入れています。
・施設の立地条件が、住宅地、商業地に隣接している為、地域との繋がりを持ち易い。
・ケアハウスと併設ににより、防災設備、夜間の体制が充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

施設長や管理者は積極的に自治会の会合に出席し、地域の情報を得ながら事業所が理解されるよう努めている。職員は、地域資源を活かし、利用者が地域とつながりながら穏やかに暮らし続けられるよう取り組み、地域行事や事業所行事に互いに参加し合って交流を深めている。近くの喫茶店では、利用者の好みを知って対応してもらったり、近所の人達と話しをしたりして馴染みの関係を築いている。また、「何でも相談援助」の窓口を設け、地域の人から介護のことだけでなくあらゆる相談を受け、地域包括支援センターと連絡を取り合ったり、いろいろな説明をしたりして専門職としてのアドバイスをしている。管理者と職員は、話しやすい関係をつくり互いに助け合い働きやすい環境をつくっている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの運営方針の中から、「心温まるケア」として、やさしい声かけ、話を聞くなど実践できているか、会議の場で話し合い確認している。	管理者と職員は、法人の理念を基に事業所独自の理念を作り上げ、利用者が地域の中で穏やかに過ごせるよう取り組んでいる。会議や勉強会で日々のケアを振り返り、理念を共有して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集まりや催し物への参加をしたり、散歩や買い物、地域の喫茶店を利用し日常的に挨拶を交わしている。	地域行事や町内の掃除・神社の当番に利用者と参加している。花火観賞・餅つきなどの事業所行事に地域の人を招いて交流している。また、相談窓口を設け地域住民に、専門職としてのアドバイスをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の行事の際、相談窓口を設けたり、地域の高齢者の方々の相談事に傾聴し、手助けできることがあれば随時声をかけさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に開催し、各委員を輪番にて担当に割り振り、担当委員より地域の状況や防災等について、お話していただけるよう計画・実施している。	毎回出席者に担当者を決め、話題など提供してもらえるよう工夫している。「事業所を知ってもらえるように」という要望に対して、回覧板などを利用して行事への参加を更に呼びかけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	所在市町村との連携のため、情報を確認したり、協議会での指導や情報を取り入れている。	市の担当者とは日頃から頻繁に電話連絡をして、気軽に話し合える関係をつくっている。事業所の状況を伝え、条例の変更や他の事業所の状況など細かな情報を得て、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを目指し、玄関の施錠は控える等、拘束は行わないことを原則としている。 ご家族にて希望がある場合、同意書に記入していただいている。	研修会や会議で話し合い、禁止の対象となる行為を理解し、全職員で身体拘束をしないケアや虐待の防止に努めている。ベット柵をつけるように家族からの希望があった時、納得が得られず、同意書をもらったことがあるが、四点柵にならないよう工夫した。	今後、家族からの希望がある時は、身体拘束による弊害から拘束をしないケアの必要性を理解してもらえるよう、話し合いを重ね更に拘束をしないケアに取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	介護の現場で、広義の意味の暴言・暴力が無いかを会議の場で話し合っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	将来的にご利用されても良い様に学ぶ機会を持つ必要もある。 外部の研修会に参加し、内部研修会に取り組みたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに対しての考え方や取り組み、事業所の対応の可能な範囲について説明し、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見箱の設置にともない、利用者の思いも含めて、聞き取り職員会議などを通じて運営に反映させる。 家族会での意見交換により意見の聴集を図っている。	毎月グループホーム通信と一緒に担当者が、個別の写真に様子を書き添えて送っている。訪問時や家族会などで意見や要望を聞く機会をつくっている。しかし、利用者や家族から意見や要望があまり出ていない。	言い出しやすい環境をつくりながら、全職員がいろいろな機会を利用して意見や要望を聞くよう、更なる取り組みを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や介護会議の時に意見や提案を聞き、提案を活かせる方法を検討している。 人事考課の取り組みと共に管理者と職員が1対1で話す機会を設けている。	施設長や管理者は、日頃から職員の提案や要望を聞くように努め、言い出しやすく相談できる関係を築いている。夜勤の回数や風呂の用意、部屋の掃除方法などについて、業務を見直し改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で諸規定の見直しにより意欲を持って取り組んでいただける様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を盛り込み、会議の場で伝える事で一人一人のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケア会議に出席し情報の取得や法人全体の勉強会に参加したり、外部研修などを通じて交流の場を設けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なるべく早く本人と会う機会を設け、話を傾聴し安心してもらえる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とよく話をし求めているものを理解する。 また、事業所がどこまでケアができ、どう係れるかを事前に話し合って納得の上でご利用いただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては地域包括支援センターや他の事業所のサービスに繋げるなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体の支援を行っており、本人の思いを傾聴し深く知ることにより、職員間での共有に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の連絡や家族会等で家族の不安や困っていることを聞き、一緒に考え、アドバイスをしたり安心できる様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出など家族の協力を得ながら、実現できる様努めている。 又、昔の知人などの面会もすすめ、会える様支援している。	家族の情報や日常の会話の中から馴染みの関係を把握して、馴染みの人に訪問してもらえるよう声かけしている。近所の人や昔の従業員の訪問がある。家族に働きかけて、お墓参りや帰宅の要望を実現させている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日その時の気分で変わるが、集団での行動参加や個別での対応を行いつつ、共に参加し楽しめる関係作りを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の情報提供や家族等からの挨拶や会話時には近況を伺い、相談にも応じている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の普段の暮らしの中から思いを汲み取り、夜間や入浴中など一人一人と話す機械を持ち把握出来るよう努めている。	入浴や夜間の個別で対応する時や普段の会話・表情に注意したり、直接話しかけたりして思いの把握に努めている。また、利用者のありのままの言葉を記録して、情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々交流をしていく中で本人、家族や来所者からの話を聞き、把握に努めている。 思い出したこともその都度、記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活を個別記録に毎日記入する事により、身体状況の変化や様子を把握し情報共有、情報交換に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に本人や家族のニーズを聞き、職員間で検討し、わかりやすい表現でケアプランに反映させるようにしている。 ADLや体調の変化により都度対応している。	家族に手紙で要望を聞き、担当職員や医師からの意見を基に会議で話し合い介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、必要に応じて変更し現状に即した介護計画となるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに日常生活や健康状態など日々の記録を記入している。 また情報の共有の為、引継ぎノートに記載することもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺の地域資源を家族を巻き込んで適宜活用し、豊かな生活が送れる様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診やかかりつけ医への受診往診で対応している。 緊急時や家族の付添いが困難な場合は、家族と連絡を取りつつ職員が付き添っている。	協力医に変更する利用者もいるが、家族の付き添いでかかりつけ医を受診している。緊急時は、職員が付き添うこともあり、かかりつけ医の往診もある。家族・職員・医師と情報を共有して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は在籍していないが、かかりつけ医の看護師との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人への支援情報を医療機関に提供し、職員が見舞うようにしている。 家族とも情報交換しながら、回復状況等速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には事業所として対応の限界を話し、理解を求めている。 変化のあった場合は、その都度検討し、家族と共に方針を統一できるよう支援する。	契約時に入浴や歩行ができる状態までの入居であることを説明し、理解・納得の上での入居としている。利用者・家族とは、早い段階から次の利用先などを含め、話し合いをしている。全職員に急変時の対応ができるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受講し、全ての職員が対応できるよう機会を設けている。 夜勤時の緊急対応マニュアルを整備し、周知徹底に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	岐阜市中消防署の指導のもと夜間想定も含む年2回の避難訓練を実施している。 地域の防災訓練にも参加し情報を得ている。 また、グループホーム単体の避難訓練等を実施している。	併設施設と共に行う夜間想定を含む避難訓練のほかに、事業所単独の訓練もしている。運営推進会議や回覧板などで地域住民の参加を呼びかけ近隣の会社にも協力依頼するなど、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段や会議の中でも、人生の先輩として尊重した声かけへの話し合いをし、職員一人ひとりが自分の家族の立場に立って対応できるよう心がけている。	自尊心を損ねないよう心がけている。声かけや態度が不適切と思った時は、その場で互いに注意し合っている。会議などで一人ひとりを尊重した対応ができているか話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けるのではなく選択肢を提案し、一人ひとりの利用者が自分で決められる様、工夫し手助けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその一日の流れはあるが、一人ひとりの体調や気分に配慮しながら本人の気持ちを尊重して個別性のある支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣や季節に合わせた身だしなみの支援をしたり、月に1度、移動美容院の利用をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな料理や得意料理を聞いたり、下ごしらえや片付けなども出来る限り共に行い、出来ることを取り入れながら楽しめる様配慮している。	利用者の好みや食材を見ながら献立を立てている。包丁を使って皮をむくなど、準備や片づけに利用者一人ひとりの力を活かせるよう支援している。また、話しをしながら一緒に楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定や食事・水分摂取量の記入を行い確認している。 一人ひとりの状態に応じた支援に努めている。 かかりつけ医との確認も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状況に合わせ、口腔ケアの声かけや介助の実施、毎晩の義歯洗浄剤の使用により清潔を保つ様心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表によりパターンの把握に努め、一人ひとりの状況に合わせた支援をしている。 できる動作は自分でしてもらえるよう見守りのもと行ってもらう。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。夜間もおむつやポータブルトイレを使わず、トイレ誘導している。 体調などで一時的におむつを使用しても、必ずまたトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけでなく食事や飲み物、散歩なども含め予防に取り組んでいる。 薬を飲まないと出ない人もいるため、主治医と相談しつつ状況に応じて服用の援助をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を原則としているが、余裕のある入浴時間を設け、希望時や汚染時にも臨機応変に対応できる様にしている。	希望すれば毎日の入浴も可能である。洋服選びからドライヤーで髪を整えるまで一人にかかる入浴時間を長くとり、利用者のペースで楽しめるよう支援している。嫌がる人には、担当者を変え、誘い方も工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や希望等を考慮して、ゆっくり休息が取れるようにしつつ、なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更に関しては全職員への徹底に努めている。 また状態観察・記録を行い、主治医・家族との連絡を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し日常生活でできる事の中から洗濯や掃除、食事の準備の手伝いをお願いしている。 また近くの神社への参拝などの気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や本人の体調に合わせ、個別又は他の利用者と共に戸外に出かけている。 又、家族にも協力を促し馴染みの場所へ外出をお願いしたり、ボランティアにも協力を得て外出、外食している。	天気の良い日は、個々の希望に沿って公園や天神様へ散歩に行ったり、喫茶店に出かけたりしている。地域交流会や遠出・外食時には、家族やボランティアの協力を得て支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については希望時対応し、手紙についても郵便物は本人に渡したり、家族と連絡をとりながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に一緒に生け花を生け、季節感を感じていただいたり、フロアの展示物や家具の配置など定期的に見直しをしている。	共有空間は、明るく、不快な臭いもない。利用者と一緒に花を生けたり、手作りの作品を飾ったりして季節を感じるようにしている。また、利用者が思い思いに過ごせるようソファーやテーブル・椅子の配置に工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下などにもソファーや椅子、テーブルを置き各々がくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物で使いやすい物品を持参して頂いて利用者の居心地の良さに配慮している。	箪笥・鏡台・テレビ・安楽椅子など使い慣れた物を活かして、自宅と同じような生活が出来るよう、家族と共に配置してもらっている。孫の写真や手作りのカレンダー・大正琴など趣味の道具も置いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や共有部分に対して、シルバーカーや車椅子使用者にもゆとりのある空間に心掛けている。 トイレや風呂、居室の名前の表記を大きくして利用者の目線に合わせている。		